

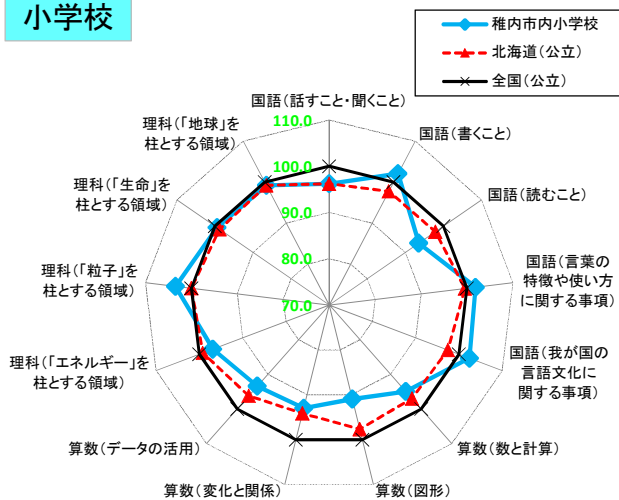
■稚内市内の状況及び学力向上策（小学校数:11校、児童数:193人）（中学校数:7校、生徒数:195人）

【教科全体の状況】

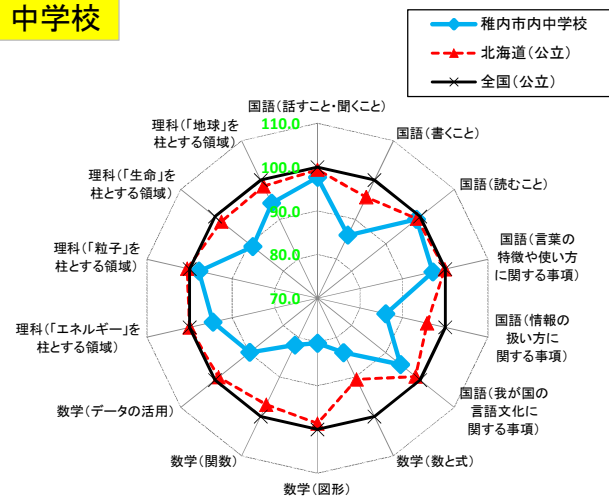
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものの（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	65	66
算数・数学	59	43
理科	64	46

小学校

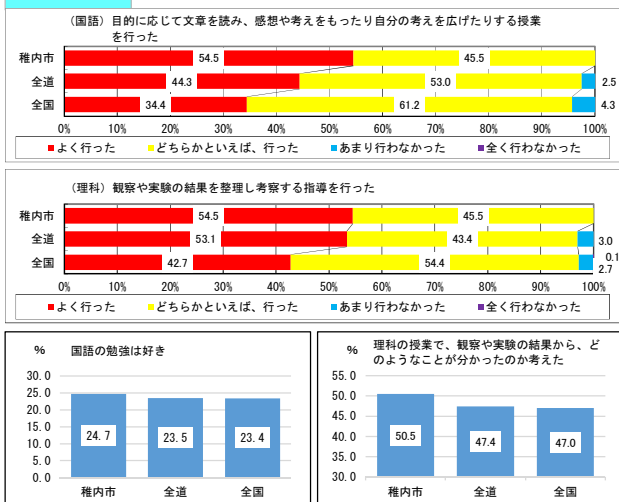


中学校

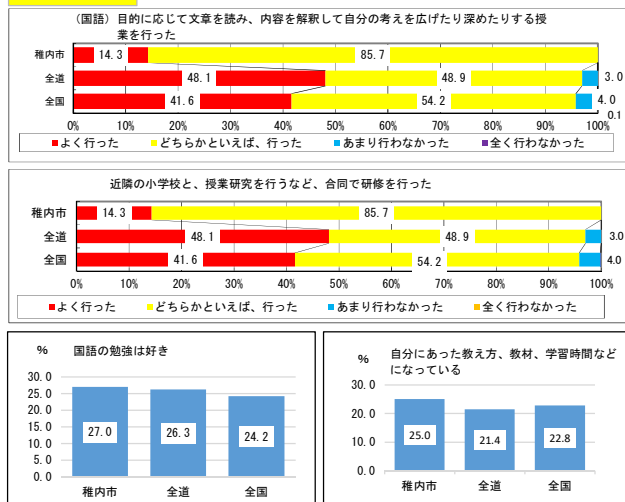


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、目的に応じて文章を読み、感想や考えをもったり、自分の考えを広げたりする授業を行ったことにより、国語の勉強は好きと回答した児童の割合が全国を上回るとともに、「我が国の言語文化に関する事項」で全国の前正答率を上回ったと考えられる。

理科の授業において、観察や実験の結果を整理し考察する指導を行ったことにより、理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えたと回答した児童の割合が全国を上回るとともに、「粒子」を柱とする領域で全国の前正答率を上回ったと考えられる。

中学校

国語の授業において、目的に応じて文章を読み、内容を解釈して自分の考えを広げたり深めたりする授業を行ったことにより、国語の勉強は好きと回答した生徒の割合が全国を上回り、「読むこと」の領域で全国の前正答率に最も近付いたと考えられる。

近隣の小学校と、授業研究を行うなど、合同で研修を行ったことにより、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていると回答した生徒の割合が全国を上回った。

【稚内市の学力向上策】

- ◎ 学校教育指導員（退職教員等）による「放課後学力グングン塾」の実施
- ◎ ICT機器活用の推進
- ◎ 学びの連続性を確保するための小中連携教育の推進

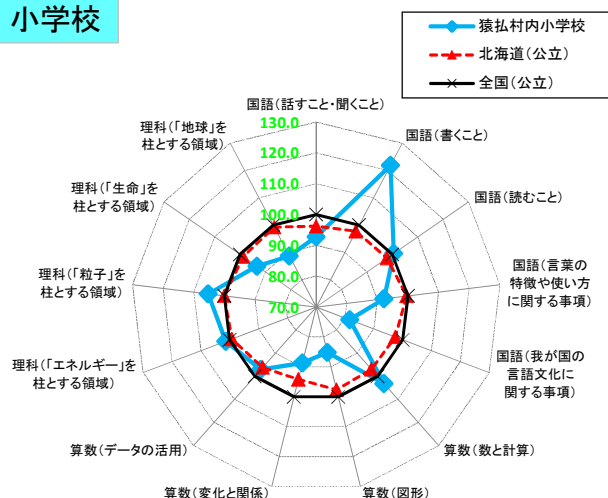
■猿払村内の状況及び学力向上策（小学校数:4校、児童数:22人）（中学校数:1校、生徒数:25人）

【教科全体の状況】

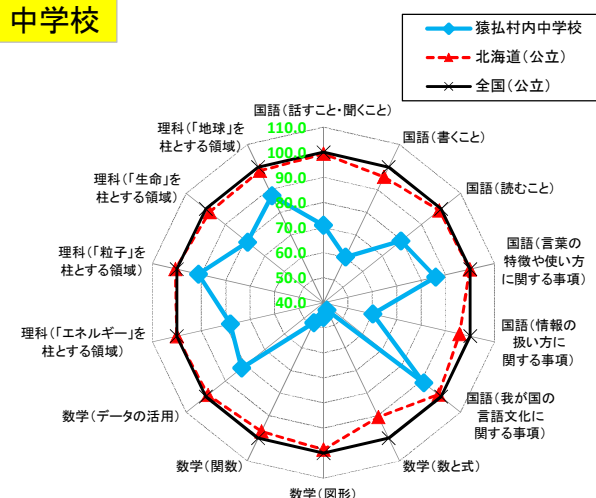
教科の領域別全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	64	57
算数・数学	60	28
理科	61	42

小学校

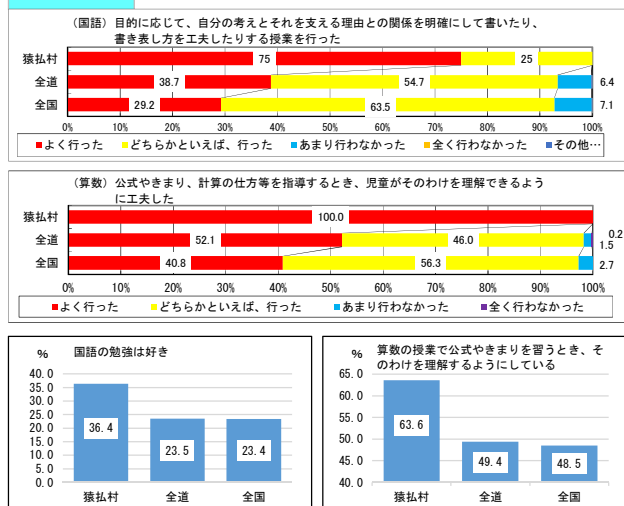


中学校



【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係を明確にして書いたり、書き表し方を工夫したりする授業を行ったことにより、国語の勉強は好きと回答した児童の割合が全国を上回るとともに、「書くこと」の領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

算数の授業において、公式やきまり、計算の仕方等を指導するとき、児童がそのわけを理解できるように工夫した授業を行ったことにより、算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようになっていると回答した児童の割合が全国を上回るとともに、「数と計算」の領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

中学校

国語の授業において、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり、表現を工夫して書いたりする授業を行ったことにより、国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うと回答した生徒の割合が全国を上回るとともに、「我が国の言語文化に関する事項」で全国の平均正答率に最も近付いたと考えられる。

一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を授業で活用したことにより、授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていたと回答した生徒の割合が全国を上回るとともに、数学では「データの活用」の領域、理科では「粒子」を柱とした領域で全国の平均正答率に最も近付いたと考えられる。

【猿払村の学力向上策】

- ◎ タブレット端末やプロジェクター導入によるICT教育の推進
- ◎ 「家庭学習の手引」の活用や「メディアルール」の共通理解等、家庭と連携した生活習慣・学習習慣の確立
- ◎ 地域素材の教材化や人材を活用した体験的なふるさと教育の充実
- ◎ 猿払村教育研究会と連携した公開授業の実施や、さるふつ保小中スタンダードの取組

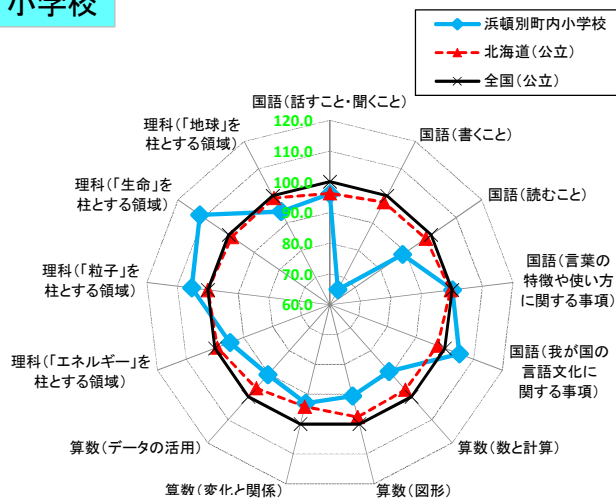
■浜頓別町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:22人）（中学校数:1校、生徒数:25人）

【教科全体の状況】

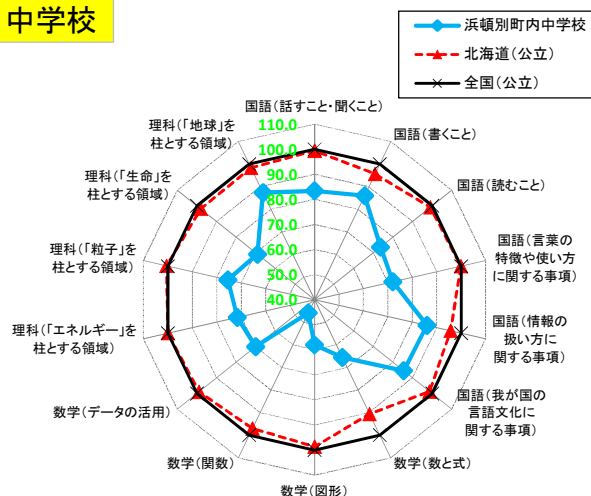
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	61	55
算数・数学	57	32
理科	65	37

小学校

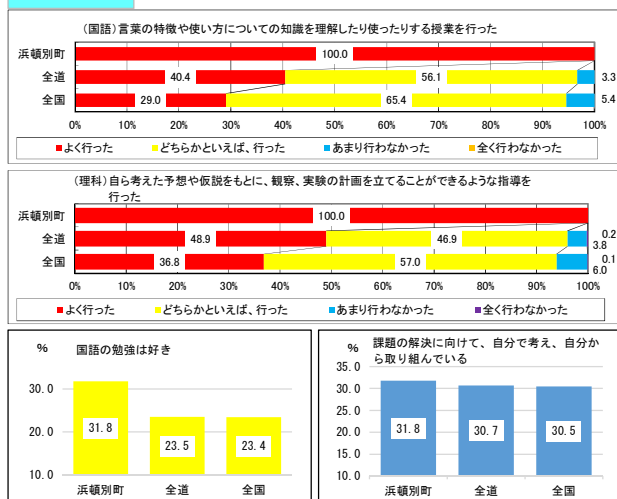


中学校

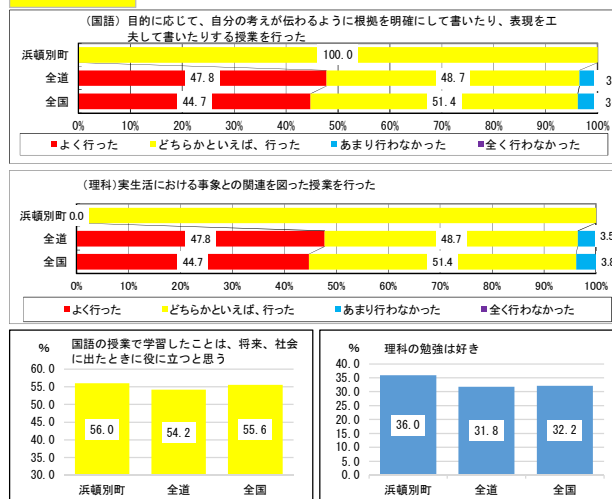


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり、使ったりする授業を行ったことにより、国語の勉強は好きと回答した児童の割合が全国を上回るとともに、「言葉の特徴や使い方にに関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

理科の授業において、自ら考えた予想や仮説をもとに、観察、実験の計画を立てることができるような指導を行ったことにより、課題の解決に向けて、自分で考えて、自分から取り組んでいると回答した児童の割合が全国を上回るとともに、「粒子」「生命」を柱とする領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

中学校

国語の授業において、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり、表現を工夫して書いたりする授業を行ったことにより、国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うと回答した生徒の割合が全国を上回り、「書くこと」の領域、「情報の扱い方にに関する事項」で全国の平均正答率に最も近付いたと考えられる。

理科の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、「理科の勉強は好き」と回答した生徒の割合が全国を上回るとともに、「地球」を柱とする領域で全国の平均正答率に最も近付いたと考えられる。

【浜頓別町の学力向上策】

- ◎ 小中が連携し、学びの共同体に基づく指導の工夫・改善による児童生徒の学力の向上
- ◎ 浜頓別町教育研究会、中頓別町合同教育研究会の活動支援による教職員の資質能力の向上
- ◎ 長期休業中の学習会や土曜学習塾の実施
- ◎ 各種検定等の検定料及び検定会場への送迎支援
- ◎ 高校生講師による中学生への勉強会の実施

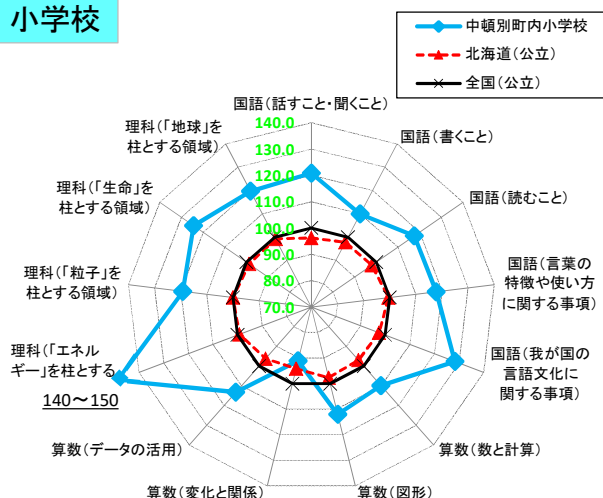
■中頓別町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:15人）（中学校数:1校、生徒数:8人）

【教科全体の状況】

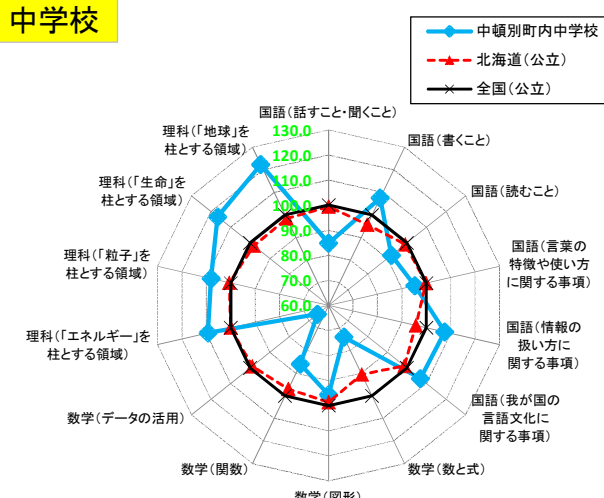
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	78	65
算数・数学	68	40
理科	80	55

小学校

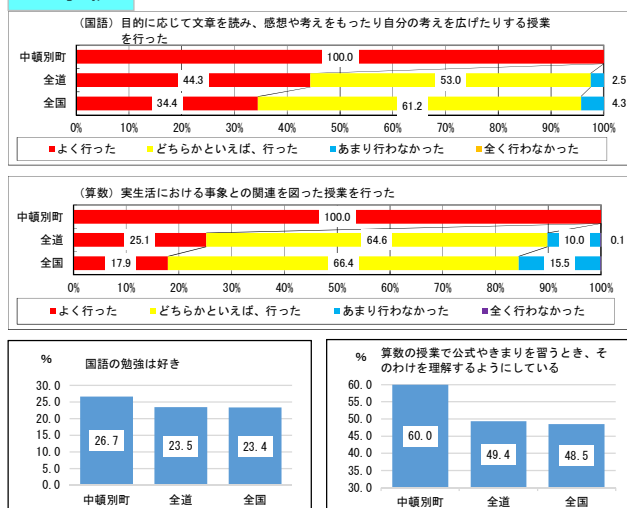


中学校

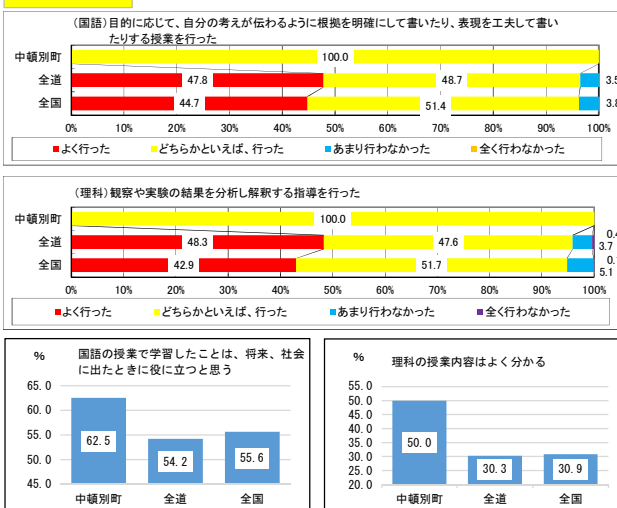


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、目的に応じて文章を読み、感想や考えをもったり自分の考えを広げたりする授業を行ったことにより、国語の勉強が好きと回答した児童の割合が全国を上回り、国語の全ての領域・事項で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

算数の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていると回答した児童の割合が全国を上回るとともに、「数と計算」「図形」「データの活用」の領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

中学校

国語の授業において、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり、表現を工夫して書いたりする授業を行ったことにより、国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うと回答した生徒の割合が全国を上回るとともに、「書くこと」の領域、「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」で全国の平均正答率を上回りと考えられる。

理科の授業において、観察や実験の結果を分析し解釈する指導を行ったことにより、理科の授業内容はよく分かると回答した生徒の割合が全国を上回るとともに、理科の全ての領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

【中頓別町の学力向上策】

- ◎ 全国学力・学習状況調査の結果に基づく教育活動の検証・改善
- ◎ 中頓別町教育研究会への支援、中頓別町・浜頓別町合同研究会の開催
- ◎ 土曜授業の実施による補充的な学習等の授業時間確保
- ◎ 校内での教師の資質向上、授業力向上を目指す「ミニ研修」の実施

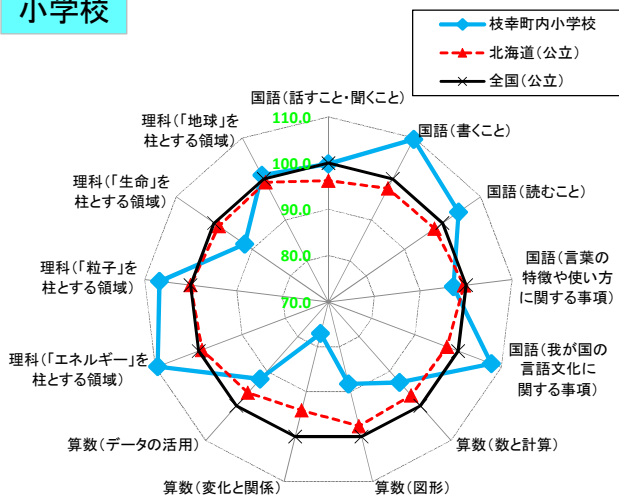
■枝幸町内の状況及び学力向上策（小学校数:7校、児童数:31人）（中学校数:3校、生徒数:68人）

【教科全体の状況】

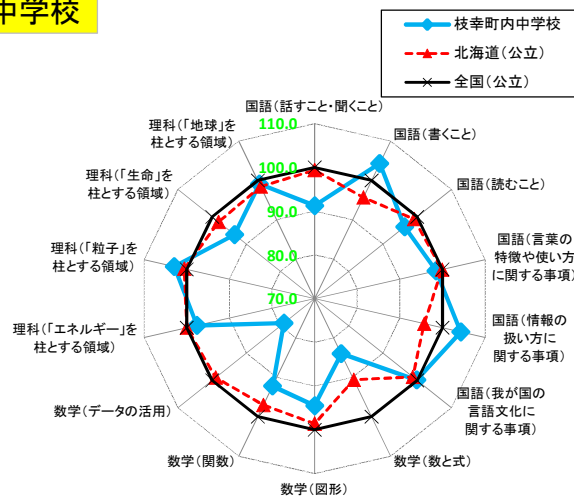
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	67	67
算数・数学	56	44
理科	64	48

小学校

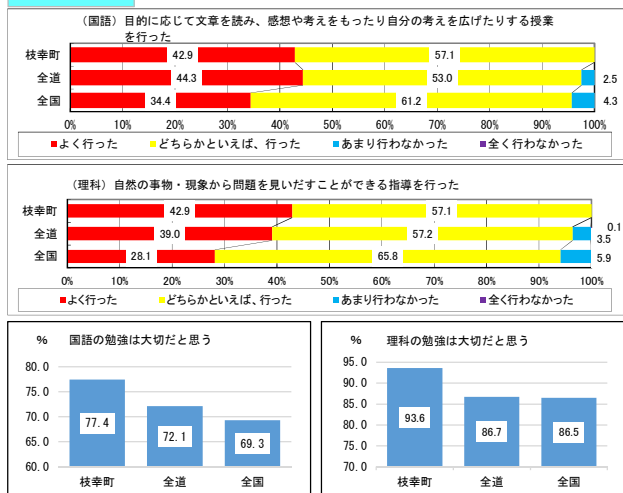


中学校

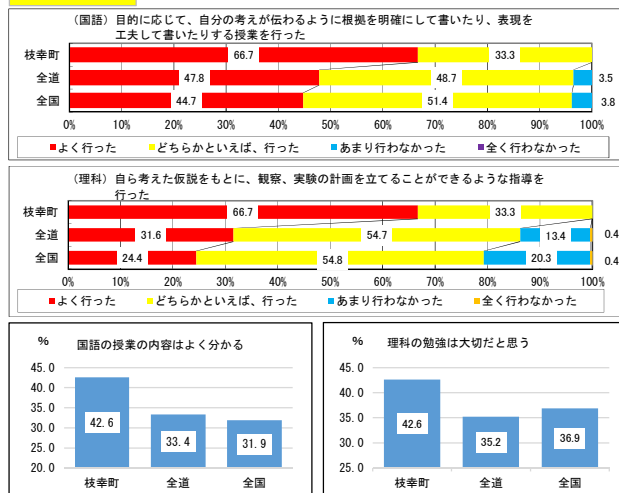


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、目的に応じて文章を読み、感想や考えをもったり、自分の考えを広げたりする授業を行うことにより、国語の勉強は大切だと思うと回答した児童の割合が全国を上回り、「書くこと」「読むこと」の領域、「我が国の言語文化に関する事項」で全国の前正答率を上回ったと考えられる。

理科の授業において、自然の事物・現象から問題を見いだすことができる指導を行ったことにより、理科の勉強は大切だと思うと肯定的に回答した児童の割合が全国を上回るとともに、「エネルギー」「粒子」「地球」を柱とする領域で全国の前正答率を上回ったと考えられる。

中学校

国語の授業において、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり、表現を工夫して書いたりする授業を行ったことにより、国語の授業の内容はよく分かると回答した生徒の割合が全国を上回り、「書くこと」の領域、「情報の扱い方に関する事項」で全国の前正答率を上回ったと考えられる。

理科の授業において、自ら考えた仮説をもとに、観察、実験の計画を立てることができるような指導を行ったことにより、理科の勉強は大切だと思うと回答した生徒の割合が全国を上回るとともに、「粒子」を柱とする領域で全国の前正答率を上回ったと考えられる。

【枝幸町の学力向上策】

- ◎ 1人1台端末を活用した実践的な情報活用力の育成
- ◎ 全国学力・学習状況調査の調査結果の分析を踏まえた検証改善サイクルの確立と授業改善の取組
- ◎ 「えさっ子の未来を拓く十か条」を生かした、学校・家庭・地域が一体となった学習習慣、生活習慣改善の取組の推進
- ◎ 「家庭学習のとびら」を活用した学習習慣の確立を図る取組の推進

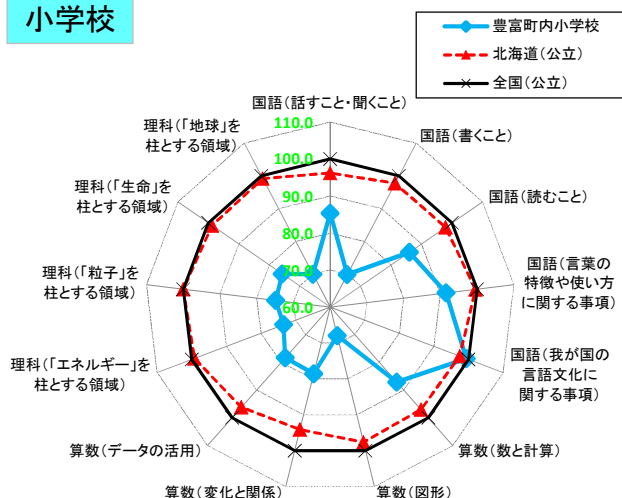
■豊富町内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:31人）（中学校数:1校、生徒数:22人）

【教科全体の状況】

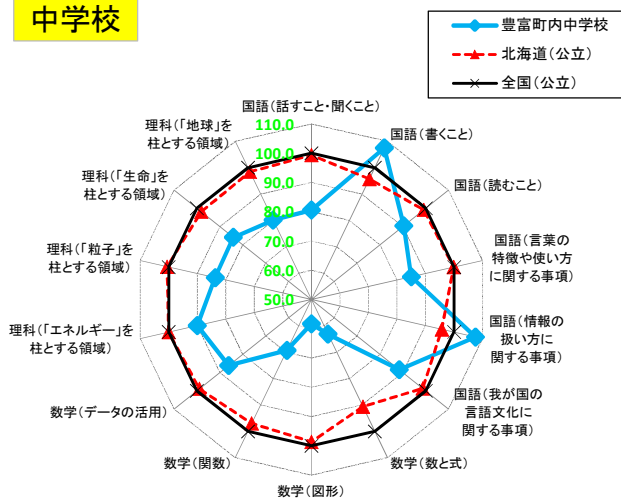
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	57	61
算数・数学	50	35
理科	47	41

小学校

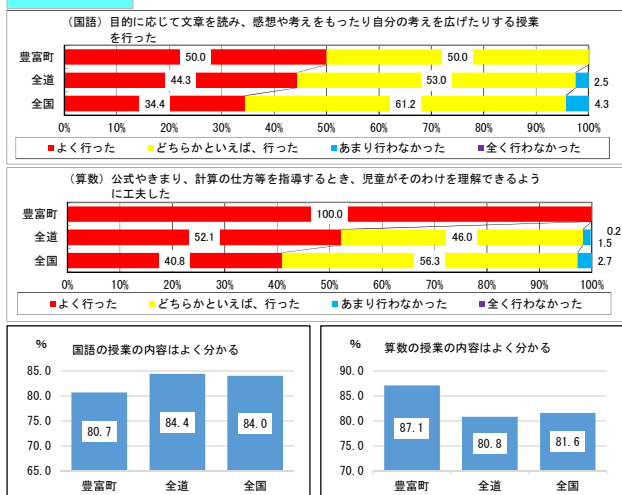


中学校



【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、目的に応じて文章を読み、感想や考えをもったり自分の考えを広げたりする授業を行ったことにより、国語の授業の内容はよく分かると肯定的に回答した児童の割合が全国に近付き、「我が国の言語文化に関する事項」で全国の平均正答率に最も近付いたと考えられる。

算数の授業において、公式やきまり、計算の仕方等を指導するとき、児童がそのわけを理解できるように工夫したことにより、算数の授業の内容はよく分かると肯定的に回答した児童の割合が全国を上回るとともに、「数と計算」の領域で全国の平均正答率に最も近付いたと考えられる。

中学校

国語の授業において、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり、表現を工夫して書いたりする授業を行ったことにより、国語の勉強は大切だと思うと肯定的に回答した生徒の割合が全国を上回り、「書くこと」の領域、「情報の扱い方にに関する事項」で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

理科の授業において、実生活における事象と関連を図った授業を行ったことにより、理科の勉強は好きと回答した生徒の割合が全国を上回るとともに、「エネルギー」を柱とする領域で全国の平均正答率に最も近付いたと考えられる。

【豊富町の学力向上策】

- ◎ 近隣の大学、高校と連携した学びの教室の開催
- ◎ 小学生を対象とした公設による学習塾の設置
- ◎ 授業改善推進事業を活用したプログラミング学習の充実
- ◎ ALT（外国語指導助手）との協働学習の推進

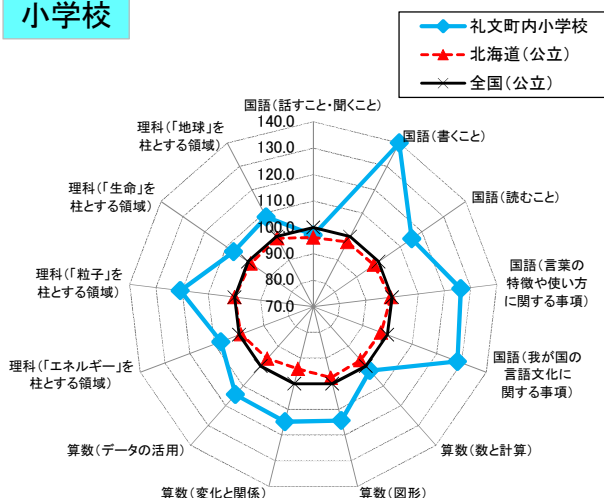
■礼文町内の状況及び学力向上策（小学校数:3校、児童数:14人）（中学校数:2校、生徒数:13人）

【教科全体の状況】

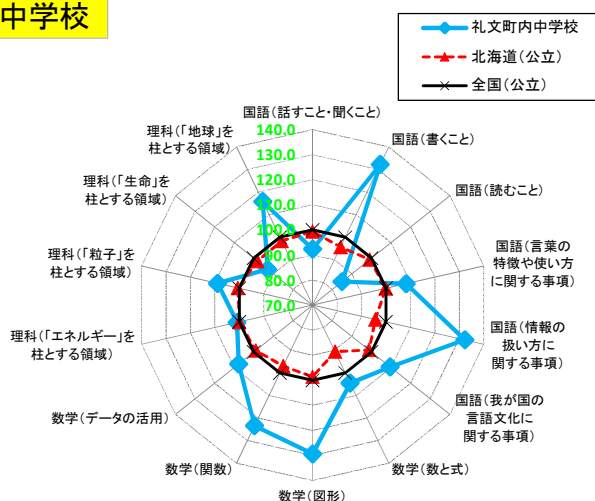
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	79	74
算数・数学	70	58
理科	71	51

小学校

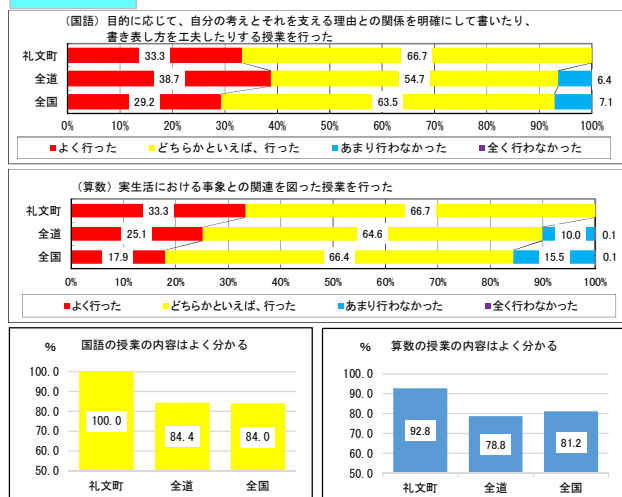


中学校



【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係を明確にして書いたり、書き表し方を工夫したりする授業を行ったことにより、国語の授業の内容はよく分かると肯定的に回答した児童の割合が全国を上回り、「書くこと」「読むこと」の領域、「言葉の特徴や使い方に
関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

算数の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、算数の授業の内容はよく分かると肯定的に回答した児童の割合が全国を上回るとともに、算数の全ての領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

中学校

国語の授業において、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり、表現を工夫して書いたりする授業を行ったことにより、国語の勉強は好きと肯定的に回答した生徒の割合が全国を上回り、「書くこと」の領域、「言語の特徴や使い方に
関する事項」「情報の扱い方に
関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

数学の授業において、公式やきまりなどを指導するとき、生徒がその根拠を理解できるように工夫したことにより、数学の勉強は大切だと思うと肯定的に回答した生徒の割合が全国に近付き、数学の全ての領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

【礼文町の学力向上策】

- ◎ 「礼文学」「礼文検定」の実施
- ◎ 1人1台端末を有効活用した学習活動の充実
- ◎ ALT（外国語指導助手職員）とJETプログラムを活用した外国語教育指導体制の充実
- ◎ 全国学力・学習状況調査結果を踏まえた学校ごとの「学校改善プラン」の作成

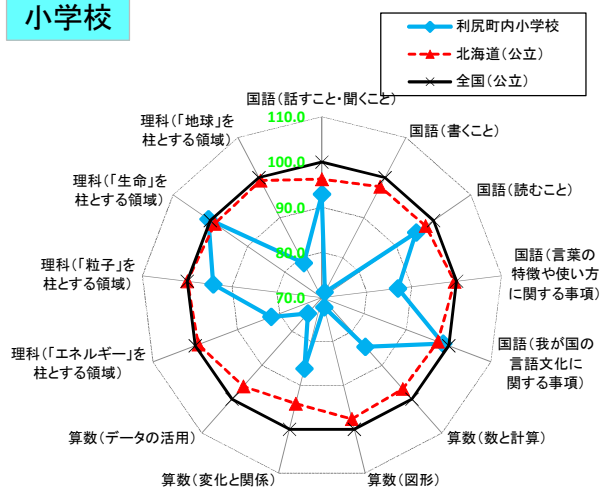
■利尻町内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:13人）（中学校数:1校、生徒数:14人）

【教科全体の状況】

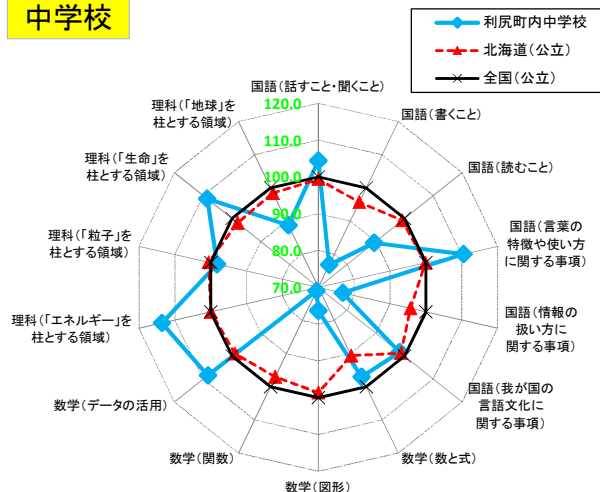
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	59	71
算数・数学	50	47
理科	59	51

小学校

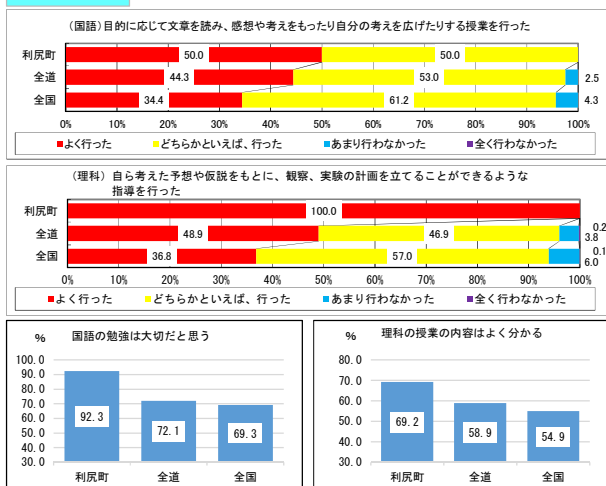


中学校

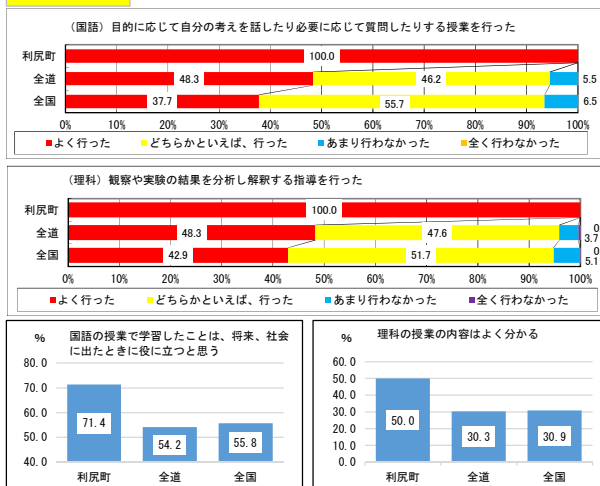


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校
国語の授業において、目的に応じて文章を読み、感想や考えをもったり、自分の考えを広げたりする授業を行ったことにより、国語の勉強は大切だと思うと回答した児童の割合が全国を上回り、「我が国の言語文化に関する事項」で全国の前正答率に最も近付いたと考えられる。 理科の授業において、自ら考えた予想や仮説をもとに、観察、実験の計画を立てることができるような指導を行ったことにより、理科の授業の内容はよく分かると回答した児童の割合が全国を上回るとともに、「生命」を柱とする領域で全国の前正答率を上回ったと考えられる。

中学校
国語の授業において、目的に応じて自分の考えを話したり、必要に応じて質問したりする授業を行ったことにより、国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと回答した生徒の割合が全国を上回るとともに、「言葉の特徴や使い方に 関する事項」で全国の前正答率を上回ったと考えられる。 理科の授業において、観察や実験の結果を分析し解釈する指導を行ったことにより、理科の授業の内容はよく分かると回答した生徒の割合が全国を上回るとともに、「エネルギー」「生命」を柱とする領域で全国の前正答率を上回ったと考えられる。

【利尻町の学力向上策】

- ◎ 利尻町で作成した独自の問題集の活用
- ◎ CRT学力検査の実施
- ◎ 島内小・中学校間連携による教員の資質能力の向上
- ◎ 大学生を活用した学力向上推進事業の実施（教育委員会社会教育事業）
- ◎ 1人1台端末等を活用したICT教育の推進

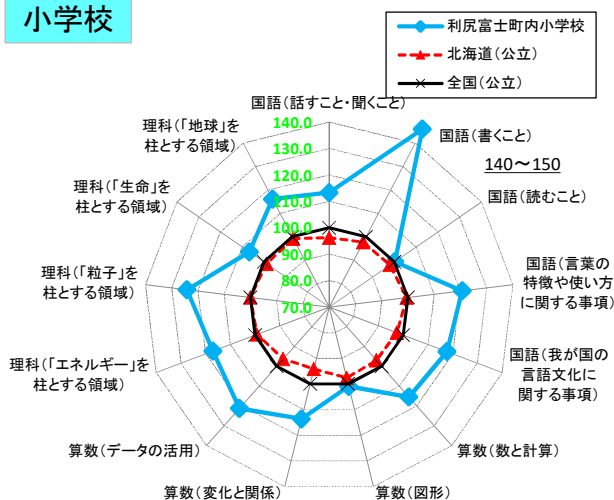
■利尻富士町内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:12人）（中学校数:2校、生徒数:17人）

【教科全体の状況】

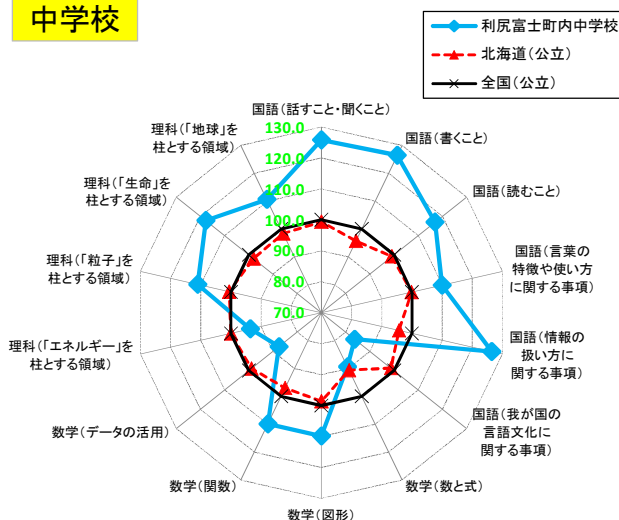
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	76	74
算数・数学	71	50
理科	74	54

小学校

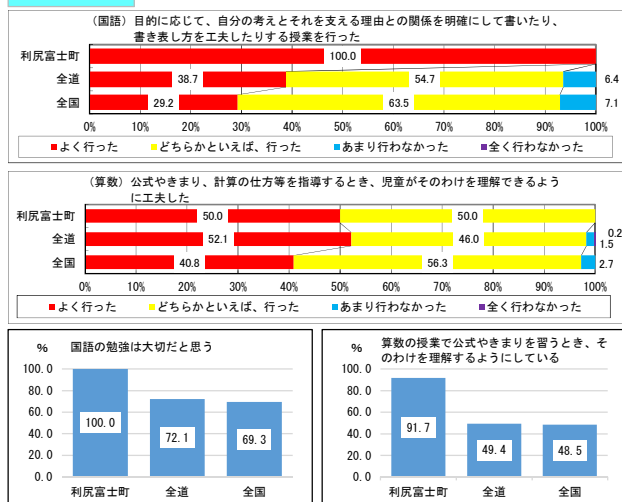


中学校



【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係を明確にして書いたり、書き表し方を工夫したりする授業を行ったことにより、国語の勉強は大切だと思うと回答した児童の割合が全国を上回るとともに、国語の全ての領域・事項で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

算数の授業において、公式やきまり、計算の仕方等を指導するとき、児童がそのわけを理解できるように工夫したことにより、算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしたと回答した児童の割合が全国を上回るとともに、算数の全ての領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

中学校

国語の授業において、目的に応じて自分の考えを話したり、必要に応じて質問したりする授業を行ったことにより、国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思うと回答した生徒の割合が全国を上回るとともに、国語の3領域2事項で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

理科の授業において、観察や実験の結果を分析し解釈する指導を行ったことにより、理科の授業の内容はよく分かると思うと回答した生徒の割合が全国を上回るとともに、理科の「粒子」「生命」「地球」を柱とする領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

【利尻富士町の学力向上策】

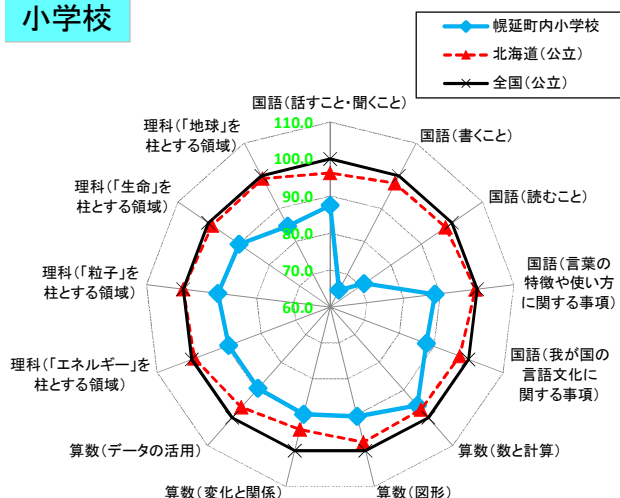
- ◎ 全国学力・学習状況調査の結果分析に基づく個に応じた指導の改善・充実
- ◎ 小中連携による乗り入れ授業の実施、TT指導・習熟度別授業の推進
- ◎ 1人1台端末、ICT機器AIアプリを活用した授業及び学習の推進
- ◎ 各種検定受検料の助成（令和4年度より1回目合格者を対象に、助成回数を2回に増加）

■幌延町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:19人）（中学校数:1校、生徒数:13人）

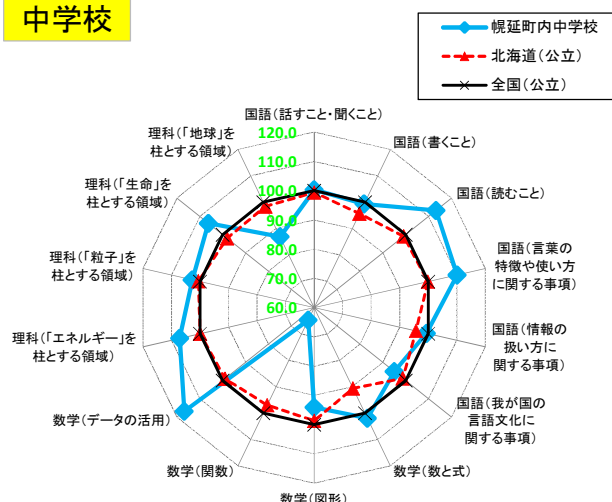
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

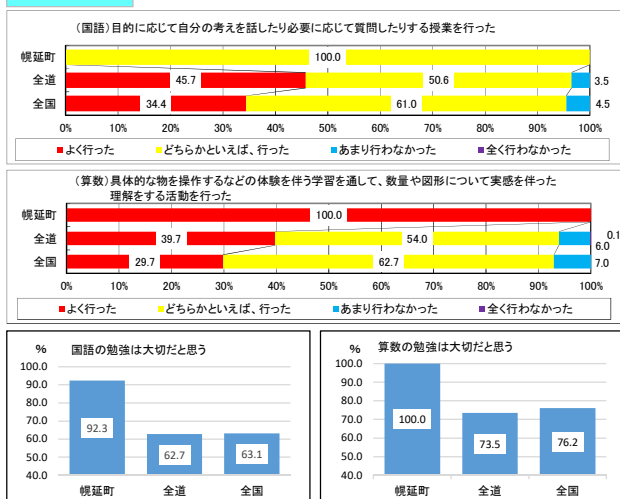


中学校

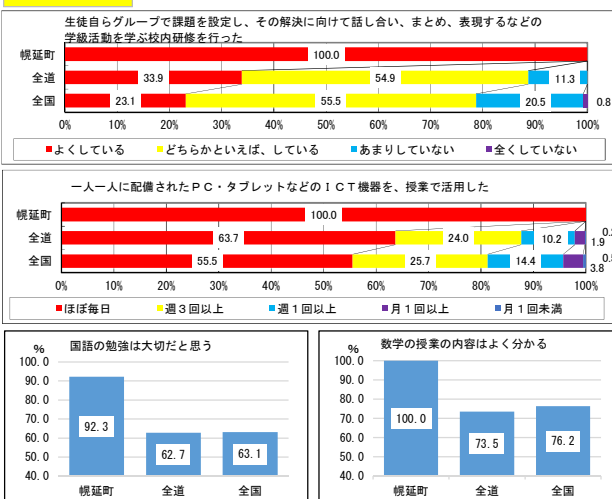


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、目的に応じて自分の考えを話したり必要に応じて質問したりする授業を行ったことにより、国語の勉強は大切だと思うと回答した児童の割合が全国を上回り、国語の「話すこと・聞くこと」の領域で全国の平均正答率に最も近付いたと考えられる。

算数の授業において、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を持った理解をする活動を行ったことにより、算数の勉強は大切だと思うと回答した児童の割合が全国を上回るとともに、算数の「数と計算」の領域で全国の平均正答率に最も近付いたと考えられる。

中学校

生徒自らグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行い、授業改善を推進したことにより、国語の勉強は大切だと思うと回答した生徒の割合が全国を上回るとともに、国語の「読むこと」の領域、「言葉の特徴や使い方に
関する事項」で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日授業で活用したことにより、数学の授業の内容はよく分かったと回答した生徒の割合が全国を上回るとともに、数学の「数と式」「データの活用」の領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

【幌延町の学力向上策】

- ◎ 学校ごとの学力向上プランの実施と評価
- ◎ ティーム・ティーチングや習熟度別学習、個別学習など、指導体制の充実
- ◎ 公開授業研究会の開催など、町内の学校が一体となった授業改善の取組の推進
- ◎ 学力向上に向けたICT機器の活用